



syngenta

2018年度進捗報告

the  
good  
growth  
plan

目次

01

はじめに

グッドグロースプランは、シンジェンタのクローブプロテクションおよび種子の両事業の成功と長期的発展を推進し進める上で核となります



02

6つのコミットメント

6つのコミットメントは、生産者が急速に増加する世界の人口に、持続可能な方法で十分な食料を供給できるよう支援しています

 作物の生産効率を高める	 より多くの農地を回復する	 豊かな生物多様性を促進する
 小規模農家を支援する	 農業従事者の安全を守る	 全ての働き手に配慮する

04

作物の生産効率を高める

リファレンスファームにてベンチマークファームを上回る収穫高を記録するとともに、将来の農業の在り方を大きく変えるデジタル革新においても、一歩先行く取り組みを進めています



07

より多くの農地を回復する

グアテマラとほぼ同じ面積の農地の土壌改善を達成。さらなるパートナーシップにより、この動きをさらに活発化していきます



10

豊かな生物多様性を促進する

これまでに培った経験や構築したエビデンスから、生物多様性への投資がビジネスの発展につながる事が実証されています



12

小規模農家を支援する

小規模農家の収穫高の大幅な増加を後押しし、幅広い連携を通してより効果的な農法の普及に努めています



14

農業従事者の安全を守る

記録的な数の農業従事者にトレーニングを提供し、新たな手法を通してシンジェンタ製品の安全な使用を促しています



16

全ての働き手に配慮する

目標100パーセント達成に向かって着実に歩みを進め、業界初の公正労働協会認定企業となります



20

進捗状況 数値データ

データを公開することで透明性を高め、責任ある行動を推進し、関係者との確かな情報に基づいた対話を促しています



詳細情報

や「シンジェンタに関するよくある質問」の回答については、こちらをご覧ください:

[www.syngenta.com](http://www.syngenta.com)



# グッドグロースプラン

グッドグロースプランは、シンジェンタのクローププロテクションおよび種子の両事業の成功と長期的発展を押し進める上で核となります



グッドグロースプランは地球の生態系と農業の未来を確かなものにするために改善が不可欠な分野に対して、6つのコミットメントを提唱しています。各コミットメントにそれぞれ高く厳しい目標を設定し、2020年までの達成を目指すと同時に、[www.data.syngenta.com](http://www.data.syngenta.com)にて、KPI（重要達成指標）に対する進捗状況と詳細情報を掲載しています。

グッドグロースプランの原則と優先事項は、シンジェンタの事業活動に深く組み込まれています。シンジェンタはリファレンスファームからこれまでにない大量の農業データや情報を収集し、世界各地の提携パートナー、研究機関、NGO団体、公的機関と共有しています。こうして得た知識を当社の製品やサービスの改善に役立てるとともに、農家、農村コミュニティ、地球環境に、測定可能な真の恩恵をもたらしています。

このように、グッドグロースプランは当社のビジネスだけでなく、当社がビジネスを展開する地域全体の持続可能性に貢献しています。

シンジェンタのグッドグロースプランはビジネスの持続可能な発展だけでなく、国連が掲げる17項目の持続可能な開発目標（SDGs）にも貢献しています。

国連はSDGsの達成には「将来の世代によりよい地球を残そうとする政府、民間、市民社会、そして市民によるパートナーシップが必要である」<sup>1</sup>と明記しています。シンジェンタはSDGsの多くに積極的に貢献しており、その継続的な改善を支える企業文化を維持していく責任があると認識しています。次のセクションでは、関連するSDGsの項目と照らし合わせながら、シンジェンタの進捗状況を詳しく解説していきます。

<sup>1</sup> 国際連合開発計画

# 概要



## 作物の生産効率を高める

### 2020年の目標

今以上に多くの土地、水、投入材を使うことなく、世界の主要作物の平均生産性を20パーセント高めます



## より多くの農地を回復する

劣化に瀕する農地1,000万ヘクタールの肥沃度を改善します



## 豊かな生物多様性を促進する

農地500万ヘクタールの生物多様性を高めます

### 2018年度の進捗と主な成果

# 13.0%

土地の生産性の上昇率<sup>1</sup>

リファレンスファームにてベンチマークファームを上回る収穫高を記録するとともに、将来の農業の在り方を大きく変えるデジタル革新においても、一歩先行く取り組みを進めています

# 1,080

万ヘクタールの農地が恩恵を享受<sup>2</sup>

グアテマラとほぼ同じ面積の農地の土壌改善を達成。さらなるパートナーシップにより、この動きを展開していきます

# 640

万ヘクタールの農地が恩恵を享受<sup>2</sup>

これまでに培った経験や構築したエビデンスから、生物多様性への投資がビジネスの発展につながる実証されています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



<sup>1</sup> リファレンスファームの基準年2014年との比較

<sup>2</sup> 基準年2014年からの累計。四捨五入により合計の数値に差異が生じる場合があります



情報の開示やファイルへのアクセスに対するシンジェンタのアプローチについては、こちらをご覧ください：  
[www.data.syngenta.com](http://www.data.syngenta.com)



## 小規模農家を支援する

### 2020年の目標

2,000万人の小規模農家の生産性を50パーセント向上させます

### 2018年度の進捗と主な成果

**21.9%** **1,950**

小規模農家の土地の生産性の  
上昇率<sup>1</sup>      万人の小規模農家に  
トレーニングや製品を提供<sup>2</sup>

小規模農家の収穫高の大幅な増加を実現し、  
パートナーとの連携を通して、より効果的な農法の  
普及に努めています



## 農業従事者の安全を守る

開発途上国の2,000万人の農業従事者に  
労働安全について教育します

**3,380**

万人が安全な農薬の使用方法に関するトレーニングを受講<sup>3</sup>

記録的な数の農業従事者にトレーニングを提供し、  
新たな手法を通してシンジェンタ製品の安全な  
使用を促しています



## 全ての働き手に配慮する

シンジェンタのサプライチェーン全体にわたり、  
公正な労働条件の確保に努力します

**99.6%**

の供給業者がSupplier Sustainabilityプログラムおよび  
Fair Laborプログラムに参加<sup>4</sup>

目標100パーセント達成に向かって着実に歩みを進め、  
業界初の公正労働協会認定企業となります



1 小規模農家リファレンスファームの基準年2014年との比較  
2 四捨五入により合計の数値に差異が生じる場合があります

3 基準年2014年からの累計。四捨五入により合計の数値に差異が生じる場合があります。「小規模農家を支援する」目標のもと、トレーニングを通して接触した小規模農家の数を含みます

4 当社の SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに加入した供給業者の  
98パーセントが種子サプライチェーンです



# 作物の生産効率を高める

今以上に多くの土地、水、投入材を使うことなく、世界の主要作物の平均生産性を20パーセント高めます

リファレンスファームにてベンチマークファームを上回る収穫高を記録するとともに、将来の農業の在り方を大きく変えるデジタル革新においても、一步先行く取り組みを進めています

国連の持続可能な開発目標2, 12, 17

ご存知ですか？

# 10倍以上



現在の農家は100年前と比較して、同じ土地面積で10倍以上の人々に食料を供給しています

出典：国際種子連盟、2018年

## 進捗と主な成果

- ベンチマークファームが低迷する一方で、リファレンスファームの生産性がさらにアップ
- 引き続き生産者、食品業界、政府機関との持続可能なパートナーシップを拡大
- 米国で開催された持続可能な作物生産に関する第1回カンファレンスを後援

持続可能な方法で食料の安定供給を実現するには、作物の生産性に大きな変革が求められます。世界の主要作物の生産性20パーセントアップを達成するため、シンジェンタは当社の製品を使用する生産者に栽培に関するアドバイスを提供するなどして、連携を推進しています。中でも、生産性を高める潜在能力が最も大きい小規模農家を中心に、こうした取り組みを進めています。



12-13ページの「小規模農家を支援する」をご覧ください

新たな可能性を探り、その効果を測定するため、世界39か国1,443のリファレンスファームがフィールドエキスパートと協力して20種類の作物に関するノウハウの情報共有をし、新たなソリューションを試しています。さらに、2,316のベンチマークファームがシンジェンタの製品を使用しており、両ファームからのデータから生産性と効率性の向上には何が必要かを深く理解し、長期的な進捗を追跡することができます。

## リファレンスファームが引き続き高い生産性を記録

世界的にリファレンスファームの収穫高は増加しており、基準年の2014年と比較して13パーセントも上昇しています。対するベンチマークファームでは上昇率が昨年より減少。わずか7パーセントの増加にとどまり、今年度も引き続きリファレンスファームがベンチマークファームを上回る成績を記録しました。

土地の生産性の上昇率<sup>1</sup> (単位：%) **13.0%**



<sup>1</sup> リファレンスファームの基準年2014年との比較

## 生産者ネットワーク

	2018年	2017年	2016年
リファレンスファーム数	1,443	1,459	1,039
ベンチマークファーム数	2,316	2,630	2,694

リファレンスファーム全体が堅調な成長を遂げる一方で、その伸び率は国や穀物によって大きな差が生じています。中国では種子処理剤と、土地に合わせて改良された病気に強い品種の導入により、パレイシヨの生産者が特に大きな成果を上げ、非常に好調な1年となった一方で、LATAMでは、ブラジルおよびグアテマラのコーヒー生産者が気候変動、特に干ばつの影響を受け、収穫高が減少。またトウモロコシ生産者の今年の成績は、天候に恵まれ記録的な収穫高を記録した昨年には及びませんでした。

### 農場の生産性への理解を深める

2018年も、シンジェンタのリファレンスファームとベンチマークファームのネットワークに大きな変化はありませんが、データの収集・分析を行う当社のシステムやプロセスをより高度化すべく、さらなる開発を続けています。また現在、シンジェンタは収集したデータの精度を高め、モニタリングの対象となる農場数の大幅な拡大を可能にするデジタルツールの開発に取り組んでいます。

これにより、製品開発やサービスの向上に役立つAIやデータマイニングなどのテクノロジーを活用した、より確実なエビデンスに基づくアプローチを推進することが可能となり、生産者とバリューチェーンとのつながりを向上し、実証可能、測定可能、文書で裏づけされたメリットを社会や環境にもたらすことができます。

シンジェンタは適切な製品を適切なタイミングで適切な量使用する、最適化された手順に基づき、シンジェンタ製品を安全かつ効率的に使用するためのアドバイスをリファレンスファームに提供しています。2018年のリファレンスファームの農薬散布効率は、基準年の2014年と比較して合計24.7パーセント（2017年：14.2パーセント）上昇しました。

シンジェンタは2017年に、農家のネットワークを通じて温室効果ガス（GHG）排出量の報告を開始。食品産業がサプライチェーンの持続可能性について理解を深める上で、ますます重要なデータとなっています。シンジェンタのリファレンスファームの2018年度のGHG排出効率は、基準年の2014年と比較して平均8.8パーセント向上。過去5年間の平均収穫量と比較すると、69%のリファレンスファームはベンチマークファームより高い排出効率を記録しています。

## Sustainable Solutions: バリューチェーンに付加価値を提供

消費者からの需要に応えるため、食品小売業者は購買プロセスにおいて持続可能性に関する基準を重視するようになってきました。シンジェンタのSustainable Solutionsでは、米国のフードバリューチェーンのパートナーや生産者と直接手を組み、農家の方々が十分なデータを収集・分析した上で、持続可能な農業投入資材の使用に向けた適切な判断を下せるようサ

ポートします。本プログラムに参加する農家の方々は、匿名化されたコミュニティ・ベンチマークと比較して各農場の環境結果を分析し、土地、水、窒素施肥の使用量に加え、土壌保全やGHG排出量などの効率性を示すデータをもとに、持続可能性の指標をバリューチェーンの顧客に提示することが可能となります。





### 知識を有効に活用

シンジェンタが収集したデータが、農業の明るい未来に貢献すると同時に、学んだ知識を活用し、新たな手法を取り入れることで、生産者やバリューチェーンをサポートしています。

ブラジルのNUCOFFEE® Sustentiaプロジェクトでは、生産者やバリューチェーンパートナーに革新的なメリットをもたらしています。2006年の発足当時は、バリューチェーン認定パートナーのUTZとシンジェンタで作物の品種向上を推進。後に生産性の向上に加え、クローププロテクションや養分など投入資材の有効活用にも力を入れ、プロジェクトに参加する農家の方々をサポートしました。現在では農家の方々と、GHG排出量の削減など、持続可能な農業の実現に必要な要素の特定に取り組んでいます。シンジェンタはグッドグロースプランを通じてさらに詳しいデータを収集し、気候データなどの情報と併せて分析することで、生産者やバリューチェーンに提供できる知識やメリットの範囲を大きく変えることができると考えています。

北米では、シンジェンタのSustainable Solutionsが10年にわたり、農家の生産性や持続可能性を向上させてきただけでなく、バリューチェーンと効果的に連携し、文書化や環境活動のサポートを進めてきました（5ページのケーススタディを参照）。

現在取り組んでいるプログラムでは、AGRIEDGE EXCELSIOR®で収集したデータを活用し、雑草耐性の管理により効果的な手法の試験を行っています。また農家、食品企業、大学などと協働し、ENOGEN®トウモロコシを使用した飼料による、持続可能な牛肉や乳製品の生産を推し進めています。ある研究では、ENOGEN®の導入により飼料効率率が5パーセント改善したことが確認され、GHG排出量の削減効果も期待されています。

### 知識の共有

シンジェンタはデータの活用・共有を他に先駆けて実施し、生産者が十分な情報を得た上で、生産性や効率性の大幅な改善につながる、適切な判断を下せるようサポートしてきました。その結果、食品業界や政府機関に持続可能な農業の推進に必要な知識を提供する、確固としたポジションを確立しました。

また、グッドグロースプランの進捗状況に関する詳細情報は、公式ウェブサイト：[www.data.syngenta.com](http://www.data.syngenta.com)にも公開しています。データをさまざまな形式でビジュアル化し、公開を進めることで、より多くの人々がサイトにアクセスし、私たちの取り組みについて知ってもらうことを期待しています。シンジェンタは今後もOpen Data Instituteと連携し、個々のリサーチにこうしたデータを必要としている人々が効果的に情報を活用できるよう、情報を共有したいと考えています。

2018年、シンジェンタは米国農学会が主催した、持続可能な作物生産に関する北米初のカンファレンスのスポンサーを務め、持続可能な農業を研究現場から、いかにして実際の農地に応用できるかを探りました。

また、地方自治体や政府機関がシンジェンタとの積極的な連携を進め、当社の知識や経験を活用することで、それぞれの課題や目標の達成を目指す動きが活発化してきています。例えば中国では、多くの組織とパートナーシップを構築し、政府が掲げる持続可能性目標や農業の近代化達成に向けたプロジェクトに取り組んでいます。その一つとして、定西農業局や地方自治体と連携し、中国北西部の農地におけるパレイシヨやその他の野菜の生産性向上をサポート。500人を超える農業従事者にトレーニングを提供し、ヒマワリ、野菜、ハーブなど商業的価値の高い被覆植物の栽培を推し進めることで、パレイシヨで20パーセント、キャベツで14パーセントの収穫高上昇を達成しました。

## 20%を超える 収穫高の向上

中国北西部の定西でパレイシヨの収穫高向上を達成







# より多くの農地を回復する

劣化に瀕した農地1,000万ヘクタールの肥沃度を改善します

グアテマラとほぼ同じ面積の農地の土壌改善を達成。さらなるパートナーシップにより、この動きを展開していきます

国連の持続可能な開発目標  
2, 13, 15, 17

## 進捗と主な成果

- デジタルテクノロジーの活用により農地の土壌改善が急速に加速し、2020年までの目標を7パーセント上回る成果を達成
- より効果的な方法でバリューチェーンにメリットを提示
- 中国の「Race to Zero」プロジェクトにおいて200万ヘクタールの農地を回復する新たなコミットメンを発表

現在、50パーセントを超える農地が土壌劣化の影響を受けています。シンジェンタは健康な土壌を維持し、雨風による侵食を防ぎ、肥地力を増進する農業手法の普及に取り組んでいます。これは同時に、二酸化炭素排出量を削減し、気候変動に適応することにもつながります。

シンジェンタは最小耕起、輪作、恒久的被覆植物をベースとした土壌保全型農業こそが、気候変動に対応する農業の在り方であると考え、積極的に普及を進めています。気候変動のリスクに対応する土壌保全型農業は、二酸化炭素排出量の削減、土地劣化の防止、食料安定供給の改善、農場や農村地域社会の回復力の向上に役立つとともに、品質の優れた作物をバリューチェーンに提供することを可能にします。またシンジェンタは、農家の方々との連携を進めると同時に、バリューチェーンパートナー、政府機関、研究機関の土壌保全の重要性に関する意識改革にも努めています。

恩恵を受けた農地面積<sup>1</sup>  
(単位：100万ヘクタール)

10.8m



<sup>1</sup> 基準年2014年からの累計。  
四捨五入により合計の数値に差異が生じる場合があります

5年目を迎える土壌改善プログラムでは、2020年までの到達目標を既に達成し、これを超える成果を上げています。グアテマラとほぼ同じ面積の農地1,000万ヘクタールの土壌改善を目標に掲げ、世界41か国で197のプロジェクトを展開した結果、1,080万ヘクタールの農地の肥沃度を改善しました。

この成功には、土壌保全の手法を取り入れたシンジェンタの製品やサービスの提供、デジタルソリューション、政府機関やバリューチェーンとの連携、この3つの要因が大きく影響していると考えます。

**土壌保全を取り入れた製品やサービスの提供**  
土壌保全を作物の栽培手順やトレーニングに取り入れることが、製品の差別化や種子の増殖に役立っています。例えばシンジェンタは、種子生産、種子処理、クローププロテクション、水質や土壌栄養の管理サービスなどを組み合わせた大豆の多収穫栽培法、INTEGRARE™を推進。2015年のINTEGRARE™始動以来、ブラジルでは110万ヘクタールの目標値を超える農地がこのプログラムの恩恵を受けています。

ヨーロッパでは、オオムギの品質と収穫高を向上するHYVIDO®を開発。このテクノロジーを活用して、3種類のオオムギの交配種とその土地に合わせた栽培方法を導入することで、収穫量の増加と効果的な土壌保全管理を実現しました。

ご存知ですか？

# 25mmの失われた土壌が自然に回復するには500年かかります

出典：Pimental, D. and Pimental, M.; 2003年



## デジタルソリューションにより農業の在り方が大きく変化

シンジェンタが推進する農業のデジタル化が、健全性プログラムのさらなる推進を後押ししています。この動きはラテンアメリカにおいて特に活発で、2018年にシンジェンタのプログラムの恩恵を受けた土地のほとんどが、デジタルソリューションを取り入れています。

シンジェンタは設備や機械、金融サービス、教育支援を提供するパートナーなど、複数の関係者で共有するプラットフォームを通して、農業のデジタル化を推し進めています。これにより、農家の方々に経済効果や持続可能性のメリットを十分に理解し、納得してもらった上で、計画を進めることが可能となります。

例えばブラジルでは、デジタルテクノロジー企業SmartBioと共同で開発した害虫管理プラットフォームを活用し、フィールドマッピング、デジタルモニタリング、衛星の画像情報、気象データ、専門家育成トレーニングなどを集約したプログラムを提供しています。これにより、サトウキビの生産者が異なるストレス要因の影響を受けやすいエリアを特定し、情報に従って適切な処理を実行することができます。

2018年にはさらに200万ヘクタールの農地が対象となり、シンジェンタの土壌改善プロジェクトの中でも世界最大のものとなっています。

流出は土壌劣化の最大の要因であり、これを食い止めることで肥沃な土壌ときれいな水路を確保することができます。流出と侵食の抑制には、優れた土壌管理手法の実践が必要となります。

## 幅広いパートナーシップによりプログラムがさらに拡大

シンジェンタはこれまでに、多様なパートナーと大規模なコラボレーションを進めることで、生産者の方々への影響力と信頼性を高め、政府の方針に沿ってプロジェクトを立ち上げてきました。

シンジェンタは過去5年間、国連砂漠化対処条約 (UNCCD) ならびに持続可能な開発のための経済人会議 (WBCSD) の民間セクターのパートナーを務めています。

こうした連携を通じて、Soil Leadership Academyのワークショップを30回以上開催し、UNCCDの加盟国、市民社会団体、研究組織の意識改革に取り組んでいます。また、シンジェンタはWBCSDと共に、政府機関、バリューチェーン、農家、土地利用者を対象に、土壌改善に投資するビジネスケースに関する報告書を、2018年12月の世界土壌日に発表しました。

さらに、ユニリーバ、オーラム、バリーカレボ、ラボバンクなどのバリューチェーンパートナーと共に、CSA100プロジェクトを始動。フードバリューチェーンの大手100社が協力し、持続可能な方法で農業の生産性と収入を向上し、気候変動への耐性を高め、温室効果ガス排出量を削減することで、気候変動のリスクに対応する農業を推進しています。



ほかにも2018年にバリューチェーンパートナーと共同で、ベトナムのコーヒープランテーションの改革を目指す一連の介入策(右のケーススタディを参照)や、イタリアでトモロコシ栽培の再活性化を推進する先進的な国家プロジェクトなどに取り組んできました。シンジェンタと農家、科学者、バリューチェーンパートナーとのコラボレーションによって「Mais in Italy」プログラムを発足。土地に最も適した品種、作物保護、農業の手法を集約することで、作物の生産性、効率性、持続可能性を高めることを目指しています。またプログラムの一貫として、土壌保全のベストプラクティスの導入も進めています。

これには、機械を畑に入れる作業や耕起の最小化、流出を削減する輪作の推進、デジタルシステムを活用した灌漑の最適化などの取り組みが含まれます。

### 中国の「Race to Zero」プロジェクトをサポート

シンジェンタは世界のほとんどの地域で、被覆植物の導入による保全耕起を推進しています。2018年は主に中国に焦点を絞り、200万ヘクタールの農地を対象とした土壌保全プログラムを展開。次の5年間の二酸化炭素排出量を削減すべく積極的な活動を推進しています。中国の農地全体の2パーセントにあたる土地を対象に、こうしたプログラムを実施することで、カーボンゼロ、廃棄物ゼロの事業活動を推進する中国の「Race to Zero」プロジェクトを後押ししています。煙台や山東地域を対象とした恒久的被覆植物のプロジェクトでは、リンゴやブドウの生産者の間で土壌改善の効果が見られたほか、1ヘクタールあたり900ドル以上も農家の収入がアップし、従業員、供給業者、政府機関、地域コミュニティに経済的恩恵をもたらすことができました。



#### ケーススタディ

## バリューチェーンパートナーとの連携で、持続可能なコーヒー生産を実現

シンジェンタは、Louis Dreyfus CompanyとJacobs Douwe Egbertsの2社のバリューチェーンパートナー、さらにIDH The Sustainable Trade Initiativeと連携し、ベトナムのコーヒープランテーションの土壌管理の改善に取り組んでいます。3年にわたるプロジェクトでは、30の実証圃場と農場での実践を通じて土壌劣化を防ぎ、森林伐採を食い止め、灌漑用水を保全し、気候変動への耐性を強化することで、持続可能な自然環境の開発と推進を目指しています。シンジェンタは約2,500人の農業従事者や農学者にトレーニングを提供し、持続可能性における問題を説明すると同時に、農業の安全な適正使用について指導を行っています。シンジェンタはまた、地方当局と共同でモデルケースを構築し、これを広い範囲で実践するプランを作成。次のステップでは、ベトナム高地の3つの地域にモデルケースを拡大し、2021年までに合計5,500人にトレーニングを提供することを目標としています。



# 豊かな生物多様性を促進する

農地500万ヘクタールの生物多様性を高めます

これまでに培った経験や構築したエビデンスから、生物多様性への投資がビジネスの発展につながることを実証されています

国連の持続可能な開発目標2, 15, 17

## 進捗と主な成果

- 2020年の目標を27パーセント以上超えて達成
- 多機能フィールドマージンが及ぼす経済的および社会的恩恵を数値で示した論文を発表
- 中国の国家機関と連携し、生物多様性を向上するプロジェクトを加速

## ご存知ですか？

# 84%



欧州連合では、84パーセントの作物の品種が、何らかの形で花粉媒介昆虫による受粉に依存しています。

出典：英国王立協会紀要、Klein他、2007年

品種改良、受粉、食物の多様性を支える生物多様性は、農業の持続可能性にとって無くてはならないものです。シンジェンタは健全で多様性に富んだ生態系を保護し、野生動物の生息域を広げる活動を展開。主要な戦略として、畑や水路に沿った生産性の低い耕作地を管理することで、その土地固有の生物の再生、土壌や水の備蓄、野生生物の生息域をつなぐ連続性のある土地の保護に努めています。こうした多機能フィールドマージン (MFFMs) が、持続可能で生産的な土地の活用を推進します。

## 生物多様性をもたらす価値を実証

シンジェンタは2020年までの目標を既に2017年に達成しましたが、これからも引き続き生物多様性の促進を目指して、新規および既存のプロジェクトを進めていきます。これまでシンジェンタは世界39か国で301のプロジェクトを実施し、計640万ヘクタールの農地に恩恵をもたらしてきました。こうしたプロジェクトを通して生産者は、土壌侵食の減少、土壌の養分循環、作物の受粉、害虫防除、水質などの恩恵を受けています。また社会全体においても、遺伝的多様性、二酸化炭素削減、洪水の軽減、レクリエーションの機会などの利益をもたらしています。

急激な伸びを示した2016年を除いては、対象となる農地で緩やかな改善が見られます。生物多様性を取り入れた製品やサービスを作ること決して簡単なことではありませんが、シンジェンタは今後も開発を継続し、生物多様性に考慮した農業手法と土地の責任ある管理が定着するよう取り組みを続けていきます。

恩恵を受けた農地面積<sup>1</sup>  
(単位：100万ヘクタール)

# 6.4m



<sup>1</sup> 基準年2014年からの累計。四捨五入により合計の数値に差異が生じる場合があります

Biodiversity InternationalとArcadisとのコラボレーションにより、シンジェンタは農業用地におけるMFFMsの重要性を評価したディスカッションペーパーを作成。MFFMsが自然環境に及ぼす20のメリットと、社会資本に及ぼす15のメリットを列挙し、その効果を経済的な数値に換算することで、MFFMsが農家の人々や社会にもたらす金銭的な価値を具体的に示しました。シンジェンタは現在、この論文をもとに、

バリューチェーン企業や金融機関に向けて、MFFMsによる高い投資効果への関心を高めるための円卓会議やイベントを計画しています。



多機能フィールドマージンに関する共著のディスカッションペーパーはこちらからダウンロードしてください。

[www.publications.syngenta.com](http://www.publications.syngenta.com)

## Operation Pollinator™の拡大

シンジェンタは引き続き、農業用地における野生生物の生息地や生物多様性保全の鍵となる、連続性のある自然環境の形成を推し進めています。ブラジルで展開している当社最大のプログラムでは、政策立案者、農家、地域コミュニティ、NGO団体、バリューチェーン企業と連携し、2008年のスタート時から依然活発な活動が続いています。一部の地方自治体でスタートしたプロジェクトが今ではブラジルの国全体にまで拡大し、2018年にはOperation Pollinator™を世界中で拡大すべく、積極的な活動を推進しています。

## ケーススタディ

## キウイ農園でミツバチが大活躍

シンジェンタは中国の農業科学院にある養蜂研究所と連携し、受粉環境を整備することで果物の収穫高や品質を向上するプロジェクトを始動。中国四川省にあるキウイ農園のフィールドマージンにミツバチの巣箱を置くことにより、ミツバチによるキウイの受粉において、大きな成功を成

し遂げました。シンジェンタはミツバチによる受粉が、手動受粉と比較して経済面・効率面で優れており、消費者により強くアピールする質の高いフルーツが生産できることを実証しました。



シンジェンタは2018年、中国政府の農業&研究機関と共に、「Bee Booming, Plant Flourishing, Green Growing (ミツバチの羽音が植物の繁殖と緑豊かな自然を育む)」と題したミツバチ学会に参加しました。この学会では、シンジェンタが中国にある10,000エーカー（約4,000ヘクタール）を超える農地や果樹園を対象に実施したOperation Pollinator™やHives on Farmsプログラムを通して得た経験を、他のパートナーと共有しました。プログラムの内容は、右記のケーススタディで詳しく説明しています。

Operation Pollinatorプロジェクトへの参加を希望するバリューチェーン企業数はますます増加し、2018年にはアルゼンチンやブラジルの食品企業との新たなプロジェクトが始動しています。さらにシンジェンタの活動は農地だけに留まらず、北米では、当社のマネジメント能力や種子のコンサルティングサービスを生かし、ゴルフコースの区域外のエリアをミツバチや他のポリネーター（花粉媒介者）の生息地に整備するよう、積極的な働きかけを行っています。





# 小規模農家を支援する

2,000万人の小規模農家の生産性を50パーセント向上させます

小規模農家の収穫高の大幅な増加を後押しし、幅広い連携を通してより効果的な農法の普及に努めています

国連の持続可能な開発目標1, 2, 17

## 進捗と主な成果

- 小規模農家リファレンスファームの土地の生産性を21.9パーセント向上
- 世界各地でリーチ数がアップし、より多くの人々がトレーニングを受講
- バリューチェーンパートナーとの連携拡大により、小規模農家の生産性向上を牽引

ご存知ですか？

# 20-30%の収量格差

発展途上国では、男性と女性の間で20-30パーセントの収量格差が生じています。

出典：国連食糧農業機関（FAO）、2011年



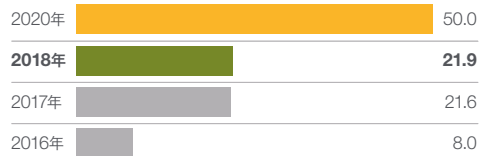
発展途上国で消費される食料の80%以上を小規模農家が生産しています。小規模農家の作物の生産性は大規模農場と比較してかなり低くなっており、このギャップを埋めることが食料の安定供給と貧困の削減につながると考えられます。

シンジェンタの売上の半分以上は、成長経済圏の小規模農家が占めています。こうした小規模農家と私たちとの接点のほとんどは、地元の販売代理店や小売業者を通じた間接的なものとなっています。

## トレーニングを通して収穫高とリーチを向上

シンジェンタの小規模農家リファレンスファームの収穫高は、2014年以来、毎年少しずつ増加し、堅調な伸びを維持しています。リファレンスファーム全体の土地生産性は2014年の基準値と比較して21.9パーセントもアップしました（2017年：21.6パーセント）。これは小規模農家ベンチマークファームの同時期と比べて3.5倍以上の上昇となっています。

小規模農家の土地の生産性の上昇率<sup>1</sup> **21.9%**  
(単位：%)

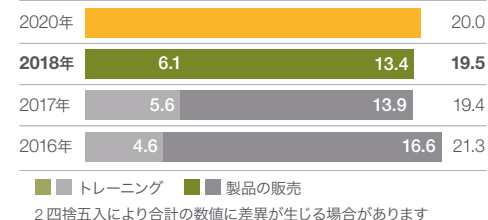


<sup>1</sup> 小規模農家リファレンスファームの基準年2014年との比較

小規模農家の収穫高が伸び悩むのは、テクノロジーの欠如、またはテクノロジーを効果的に活用する知識の欠如が原因であることがほとんどです。例えば、トマトを栽培するアフリカのリファレンスファームでは、シンジェンタの交配種子を導入し、適切なトレーニングを受講したことで、収穫高が大幅にアップしました。

フィリピンでは、低品質の作物保護製品を使用していた米農家で、特に収穫量の低さが見られましたが、殺虫剤のVIRTA KO®など、高性能製品の効果的な使用方法に関するトレーニングを受けたことで、一部の生産者では1ヘクタールあたりの収穫高が2倍に倍増しました。

トレーニングや製品の販売を通じて接触した小規模農家の数<sup>2</sup> (単位：100万) **19.5m**



小規模農家へのリーチ数は、売上データをもとに割り出したシンジェンタ製品を購入した小規模農家の数と、トレーニングを受講した農家の数を足して算出しています。売上高から算出した小規模農家の数は、2017年の1,390万人から2018年は1,340万人へとわずかに減少しています。これは地域によって大きな差があり、中国ではどうもろこし価格の上昇によりリーチ数がアップ。アフリカや中東でも小規模農家を対象とした新製品が加わったことでリーチ数がアップしたことを示しています。一方、南アジアでは現状維持となり、ASEANやLATAMではリーチ数は減少しています。

また同時に、世界全地域で610万人を対象にトレーニングを実施することで、小規模農家へのリーチ数を拡大しています（詳しくは14-15ページの「農業従事者の安全を守る」を参照）。トレーニングは次の3つが主な要因となり、大きな成果を上げています。当社のコマースチームは、顧客に提供する製品やサービスの一部として、トレーニングの重要性が増していることを認識しています。また、顧客管理ツールを活用してトレーニングの受講を促進し、記録に残すことで、より質の高いデータを収集することができます。さらに、より多くのトレーナーを養成することで、特にAPACやLATAMにおいて、安全な使用方法に関するトレーニング能力の拡大に努めています。

### 小規模農家のニーズに合わせた製品やサービスを提供

小規模農家は当然のごとく価格に敏感で、シンジェンタが扱う高品質製品は、低価格のジェネリック品とのますます激化する厳しい競争に直面しています。そこでシンジェンタは新たに事業提携を結び、小規模農家のニーズを満たすよう、コストパフォーマンスに優れた提案をしています。

例えば西アフリカでは、カカオ生産者にカカオ殺菌剤PERGADO®の安全で効果的な使用方法を指導することで、収穫高が40パーセント以上もアップ。さらに、バリューチェーンの残留農薬検査の基準を満たしたことで、世帯収入が年間300ドルも増加しました。PERGADO® Cocoaはシンジェンタ初の銅を含まない殺菌剤で、シンジェンタではこのマンジプロパミドを使用した製品を、コートジボワールを皮切りに、近い将来、西アフリカ全域に広めたいと考えています。

こうした製品を小規模農家に売り出す際、提携業者のサポートを得ながら、トレーニングや技術的なアドバイスをテクノロジーと併せて提供することが、シンジェンタの製品やサービスの大きな強みとなります。シンジェンタは生産者の方々が当社の製品を安全かつ効率的に使用し、投資に対する最大限の効果を得ると同時に、生産者の家族の生活や地域コミュニティにも恩恵をもたらすことを期待しています。

### ベストプラクティスを実践

小規模農家へのトレーニングの提供は、グッドグロースプランのコミットメントにおける重要な要素となっています。例えばインドでは、世界的な食品飲料メーカーと手を組み、マハーラーシュトラ州にモデルファームを設立。土壤保全や生物多様性、ならびに化学製品の安全な保管法や使用方法に関するベストプラクティスを実践し、トレーニングを行っています。またインドのWeCareプロジェクトでは、製品の責任ある管理の周知に力を入れるとともに、効果的に作物を保護することで生産性を向上し、暮らしをより豊かにする方法を生産者の方々に指導しています（15ページのケーススタディを参照）。

栽培した作物が法人顧客の基準を満たすことから、シンジェンタは特定の作物に的を絞ったジョイントプロジェクトを、バリューチェーンパートナーと共に活発に展開しています。ベトナムのコーヒー生産者とのプロジェクト（9ページのケーススタディを参照）に加え、メキシコでも複数の企業パートナーと手を組み、家族経営の酪農農家における飼料作物の改善に取り組みました。詳しくは、右記のケーススタディを参照してください。

### ケーススタディ

## トウモロコシの生産性アップで、酪農農家の生活を改善

メキシコ・ハリスコ州はテキーラの生産地として有名ですが、ここでは約14,000の農家が家族経営で酪農を営んでおり、その多くが経営難に苦しんでいます。そこでシンジェンタは、地元の農業委員会や大手乳業メーカーと協力し、飼料の生産性を向上させることで、経営状態の回復を狙う試みをスタートしました。

その結果、シンジェンタの作物保護手順でトウモロコシを栽培し、テクニカルサポートやトレーニングを受けた40件以上の小規模農家で、牛の飼料コストを30パーセントも削減することができました。さらに乳質も向上し、生乳の売買価格も上昇。シンジェンタはこの取り組みを、2021年までに1,500の家族経営農家に拡大することを目指しています。





# 農業従事者の安全を守る

開発途上国の2,000万人の農業従事者に労働安全について教育しています

記録的な数の農業従事者にトレーニングを提供し、新たな手法を通してシンジェンタ製品の安全な使用を促しています

国連の持続可能な開発目標2, 3, 17

## 進捗と主な成果

- 2020年の目標を3分の2以上超えて達成
- トレーナー養成プログラムで引き続きトレーニング能力を強化
- 安全性向上に向けて、企業やパートナーとのコラボレーションを拡大

私たちは農業分野の労働安全衛生を向上させる責任を共有しています。シンジェンタ製品の正しい使用を徹底することは、当社のビジネスモデルの骨格を成すものであり、このことが農業従事者や一般の人々の健康や安全を守るだけでなく、環境保護にもつながります。特に開発途上国の小規模農家においては、作物保護製品の安全で責任ある効率的な使用方法についてきちんとした指導が行われていないことが多く、重点的な対策が求められます。

## 製品やサービスの要となるトレーニング

2018年には、商業活動と併せて実施した安全トレーニングや安全な使用方法に関する意識向上イニシアチブに830万人が参加しました(2017年:820万人)。2014年からの累計は3,380万人に達し、2020年までに2,000万人という目標を上回る成果を上げています。

トレーニング参加者のおよそ70パーセントが小規模農家で、2018年にはさらに610万人の小規模農家に指導を行うことができました(2017年:560万人)。

安全な農業の使用方法に関する  
トレーニングの受講者数<sup>1</sup> (単位:100万)

33.8m



<sup>1</sup> 基準年2014年からの累計。四捨五入により合計の数値に差異が生じる場合があります。「小規模農家を支援する」目標のもと、トレーニングを通して接触した小規模農家の数を含みます

トレーニングの成功の鍵となるのが、質の高い専門家チームによってトレーニング能力を強化するトレーナー養成プログラムです。本プログラムでは、当社の営業担当だけでなく、パートナーや販売代理店、農業分野の研究者を対象にしたトレーニングを提供。環境への影響を最小限に抑えながら、当社の製品を安全に使用する方法などの技術的な知識を伝えるほかに、人々の意識や行動の変化を促すより効果的な啓発方法をアドバイスしています。

## 安全かつ効率的に作物を保護

トレーニングを受けることで顧客は、シンジェンタの製品を安全に使用するだけでなく、必要に応じて適量を使用できるようになるため、環境への影響を最小限に抑えると同時に、投資利益率の最大化も期待できます。

中国でシンジェンタは長きにわたり、製品の安全使用トレーニングにおける業界のリーダーとしての地位を確立。全国農業技術普及センターなど、政府や地方自治体の機関とパートナーを組み、2000年から中国本土31の省で数々のジョイントプログラムを展開しています。トレーニングでは、製品の安全使用や新たな応用技術のほか、ポリネーター(花粉媒介昆虫)に対する安全性、耐性管理について説明するとともに、政府が掲げる「Pesticide Zero Growth(農薬ゼロ成長)」戦略に沿って、農薬の使用量を抑えつつ、適量で確実に効果を発揮する方法を紹介しています。



### さらに効果的なトレーニングを実現

トレーニングでは、人々に責任ある行動を促すだけでなく、デジタルツールを用いて、生産者が特定の製品に適した気候や地下水の状態を判断できるようサポートしています。またシンジェンタは、読み書きのできない人々にも明確で分かりやすく伝えることができるよう、ラベル表示を工夫するなど、さまざまな対策を実施。バングラデシュでは、ラベル表示の意味を認識・理解できるよう実物大のポスターを用いたり、ピクトグラムで正しい個人用保護具の付け方を解説するなどして、トレーニングの効果を上げています。

また機器メーカーとも連携し、製品の設計、取扱、トレーニングの向上に努めています。例えばLATAMでは、より安全かつ効果的に農薬の散布を行うための最適なスピード、高さ、風の状態をパイロットにアドバイスし、空中散布装置メーカーをサポートするほか、容器から散布装置に農薬を移す安全・確実な方法について、装置メーカーと共同研究を行っています。

さらに業界団体のCropLifeと提携し、インドで個人用保護具の普及を促すプログラムを展開しています。



#### ケーススタディ

## インドのニュースを飾る、シンジェンタの活動

識字率が低く、辺鄙な場所にあるインドの農業コミュニティにおいて、製品の安全な使用手順を普及させるのは簡単なことではありません。シンジェンタは意識改革を図るその他のプロジェクトと並行して、インドの5つの州の5都市を対象に、WeCareスチュワードシップ・キャンペーンを展開しました。本キャンペーンでは、学校での基本の衛生管理やスチュワードシップ、シンジェンタのリファレンスファームにおける製品の安全な使用法や効果的な農法のデモンストレーション、生産者を対象にした応用技術の学習セッション、シーズン前に機材の修理や調整などの手入れを行うメンテナンスキャンプなどを実施。こうした活動を通じて、5,000人を超える若者や2,000人の生産者と接触できただけでなく、インド国内のメディアでも取り上げられ、一般市民にも広く周知することができました。



# 全ての働き手に配慮する

シンジェンタのサプライチェーン全体にわたり、公正な労働条件の確保に努力します

目標100パーセント達成に向かって着実に歩みを進め、業界初の公正労働協会認定企業となります

国連の持続可能な開発目標2, 8, 17

## 進捗と主な成果

- 種子生産農家のFair Laborプログラム加入率100パーセントをほぼ達成
- 花農家の96パーセントがGLOBALG.A.P.認証を、44%がG.R.A.S.P.アセスメントを取得
- 94パーセントの化学製品供給業者がSupplier Sustainabilityプログラムに加入

## 2018年の進捗状況：目標をほぼ達成

シンジェンタはサプライチェーン全体の公正な労働条件の実現に取り組むとともに、供給業者が最も高い倫理基準を満たすよう指導する責任を認識しています。2018年は種子、花、化学製品のサプライチェーンにおいて、目標に向かって着実な成果を上げました。

Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに参加した供給業者<sup>1</sup> (単位：%)

99.6%



<sup>1</sup> Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに加入した供給業者の98パーセントが種子サプライチェーンです。



## 種子サプライチェーンで公正な労働環境を整備

シンジェンタの種子サプライチェーンは、世界32か国、約36,000件の農家から成る特殊なネットワークを形成しており、98パーセントの供給業者が持続可能で公正な労働を推進するプログラムに参加しています。2004年から公正労働協会（FLA）と連携して、この複雑に入り組んだサプライチェーンに対応するFair Laborプログラムを構築・実施。雇用契約および報酬、安全で公正な労働条件、尊厳と敬意ある対応などの分野で、労働者の権利に関する基準を設け、モニタリングを行っています。

2018年、種子供給農場のFair Laborプログラム加入率は99.9パーセントに達し（2017年：86パーセント）、カナダ、フランス、米国を含む9か国が新たにプログラムに参加しました。残るはホンジュラス、グアテマラ、ペルーの3か国の野菜種子農場だけとなり、2019年中頃までに種子生産国すべてのプログラム加入を目指します。

2018年にはNidera™ Seedsを買収し、ブラジルをメインにアルゼンチンにも事業を展開するトウモロコシや大豆の種子供給農場が当社のネットワークに加わりました。2018年にこうした農場がFair Laborプログラムに続々と加入し、2019年には加入率100パーセントを達成する見込みです。

## グローバルな評価を獲得

2015年、シンジェンタはインドでFLAの認証を獲得。農業業界で初めてFLAの認証を受けた企業となり、サプライチェーン全体に公正な労働基準を徹底するシステムや手順が備わっていることが実証されました。以来、業界初のグローバル認証を得るべく継続的な努力を行い、2018年も着実な進歩を遂げたことから、2019年の認定が期待されます。

## 問題に効果的に対処

インドではシンジェンタが中心となり、最低賃金の順守違反が横行する問題に取り組んでいます。これには業界全体が一丸となって問題に対処することが求められるため、主要な競合他社と協議を重ね、セーフガードを設定。最低賃金を考慮して作物の価格を決めるとともに、農場に支払った金額が農業従事者にきちんと分配されることを確認した上で、新たな契約や料金体系を設定することを約束しました。

移民労働者は非常に弱い立場にあり、多くの国の農場で搾取されているのが現実です。シンジェンタはこうしたケースを目撃した際、適切な措置を取ります。タイではミャンマーからの移民労働者の待遇に大きな懸念があり、2018年にFLAを通じて、当社の農家ネットワーク内における問題の調査を依頼しました。調査結果を受け、シンジェンタは地元のNGO団体と連携し、住環境や労働条件を改善するとともに、公正な労働慣行に関する雇い主の意識を高めるなどの是正措置を講じました。



## 透明性の高い、 独立した監査

FLAはすべての是正計画とその進捗報告とともに監査結果を公表しています



詳しくはこちらをご覧ください。  
[www.fairlabor.org/affiliate/syngenta](http://www.fairlabor.org/affiliate/syngenta)

### 監査のデジタル化

シンジェンタは毎年、何千もの種子供給農場の監査を行い、データを収集・管理しています。長年の間に、それぞれの国で独自の手法を確立してきましたが、近年新しく、デジタルツールを導入。世界各地で一貫したプロセスを実行できるようになりました。新システムでは、農場の現地視察の計画・設定、監査データの収集および各農場や作物との照合、コンプライアンスの完全な可視性の確保、勧告事項や行動の追跡、改善措置のモニタリングが可能となります。既に、Fair Laborプログラムを厳しく管理し、透明性を確保すると同時に、今後注力すべき分野を明確に特定できるなどの効果が実証されています。

### 花農家：Fairtrade認証とG.R.A.S.P.を取得

花事業では、自社および外部の花農家のすべてが、労働者の健康と生産品質を保証するGLOBALG.A.P.認証を取得するよう促すとともに、大規模農場では労働条件の基準を定めたG.R.A.S.P.アセスメントの取得をサポートしています。2018年、花農家の96パーセントがGLOBALG.A.P.認証を取得し（2017年：90パーセント）、44パーセントがG.R.A.S.P.アセスメントも取得しました（2016年：32パーセント）。

2018年6月にはケニアの切り花農場が、シンジェンタ初となるFairtrade認証を取得しました。Fairtradeでは適正な労働条件、地域環境の持続可能性、公正な契約を評価するのに加え、認証を受けた組織は商品の代金に加えてFairtrade Premiumと呼ばれる奨励金を受け取り、労働者が選択した地域プロジェクトに投資することができます。詳しくは、19ページのケーススタディを参照してください。

### より厳格なプロセスの安全管理

シンジェンタはSupplier Sustainabilityプログラムを通して、化学製品供給業者の健康、安全、環境基準、社会基準を評価し、必要な改善を促しています。本プログラムでは、当社の監査員による現地監査と、化学製品業界を対象としたTogether for Sustainability (TfS) イニシアチブによる監査またはアセスメントを実施します。

また、当社の品質基準と比較して供給業者のパフォーマンスを評価し、ギャップを特定した上で、供給業者に必要な改善措置を取るよう促します。現在、持続可能性のリスク評価において、高リスクに分類された全供給業者が同プログラムに参加するという目標をほぼ達成しつつあります。2018年には、高リスクの供給業者の94パーセントがプログラムに参加し（2017年：90パーセント）、その対象を製剤、充填、包装業者にも広げています。

シンジェンタは最も重要なポイント、特にプロセスの安全管理の分野を絞って供給業者のサポートを行っています。当社のテクノロジー担当および調達担当マネージャーが供給業者の施設を訪問し、現地にて安全意識を高めるためのトレーニングを実施します。これに加え、プロセスの安全管理に関する3日間のワークショップをインドで実施するなどし、供給業者にリスク評価や緊急管理など、改善が求められる分野のトレーニングを提供しています。

化学製品業界を対象としたTfSイニシアチブでは、他の加盟企業と力を結集し、業界の持続可能なサプライチェーンの構築に取り組んでいます。またTfSに加盟することで、供給業者の監査や持続可能性に関するアセスメントを通して蓄積された、価値あるデータにアクセスすることができます。



持続可能性に関するビジネスレポート2018年度版の「持続可能な事業」はこちらをご覧ください。

[www.syngenta.com](http://www.syngenta.com)

ご存知ですか？

# >25%の 労働者

世界の労働人口の4分の1以上が農業に従事しています

出典：国際労働機関 (ILO)、2018年





## ケーススタディ

## ケニアでの事業がFairtrade認証を獲得

消費者の間で昨今、社会貢献につながる倫理的消費への関心が高まっています。Fairtradeプログラムでは労働規定、持続可能性、公正な取引の明確な基準を満たした製品に認証を付与しています。切り花や苗の需要が高まる中、シンジェンタではケニアの切り花農場で世界的に有名な組織から承認を得たいと考えました。この農場は既にGlobalG.A.P.認証とG.R.A.S.P.アセスメントを取得していますが、次のステップとしてFairtrade認証を得ることで地域コミュニティをサポートし、倫理的消費を求める消費者のニーズに応えることができると考えました。この切り花農場に加え、オランダにあるSyngenta SeedsもFairtradeトレーダーとしての認証を取得しました。

# グッドグロースプランの 進捗データ

グッドグロースプランの開始以来、独立機関によるデータ収集と検証、実行パートナーによる是認により、進捗報告の強固な基盤を確立してきました。データを公開することで透明性を高め、責任ある行動を推進し、関係者との確かな情報に基づいた対話を促しています。

対象期間：10月1日～9月30日	基準年2014年からの累計	2018年	2017年	2016年
<b>作物の生産効率を高める<sup>1,2</sup></b>				
リファレンスファームの総数		1,443	1,459	1,039
ベンチマークファームの総数		2,316	2,630	2,694
リファレンスファームの土地の生産性向上率		13.0%	10.9%	1.2%
ベンチマークファームの土地の生産性向上率		7.0%	7.3%	-2.6%
リファレンスファームの養分効率向上率		30.2%	20.3%	1.5%
ベンチマークファームを上回る成果を上げたリファレンスファーム <sup>3</sup>		64%	-	-
リファレンスファームの農業散布効率向上率		24.7%	14.2%	-16.2%
ベンチマークファームを上回る成果を上げたリファレンスファーム <sup>3</sup>		38%	-	-
リファレンスファームの温室効果ガスの排出効率向上率 <sup>4</sup>		8.8%	14.0%	7.0%
ベンチマークファームを上回る成果を上げたリファレンスファーム <sup>3</sup>		69%	-	-
<b>より多くの農地を回復する</b>				
恩恵を受けた農地面積 (単位：100万ヘクタール)		10.8	3.4	3.1
<b>豊かな生物多様性を促進する</b>				
恩恵を受けた農地面積 (単位：100万ヘクタール)		6.4	0.8	0.7
<b>小規模農家を支援する</b>				
小規模農家リファレンスファームの土地の生産性向上率 <sup>1,2</sup>		21.9%	21.6%	8.0%
小規模農家ベンチマークファームの土地の生産性向上率 <sup>1,2</sup>		6.3%	5.1%	1.6%
トレーニングを通して接触した小規模農家数 (単位：100万)		6.1	5.6	4.6
製品の販売を通じて接触した小規模農家の数 (単位：100万)		13.4	13.9	16.6

1 リファレンスファームはシンジェンタによって選ばれ、シンジェンタの製品を使用し、最適化された手順に従うよう推奨されます。ベンチマークファームは第三者の調査機関によって無作為に選ばれ、これら生産者の農法は生産者全体を代表しているものとなります。リファレンスファームおよびベンチマークファームは、複数のグループに分けられています。各グループの農業気候条件は統一されており、リファレンスファームやベンチマークファームの生産者の特性も類似しています。

2 土地の生産性およびその効率の報告に関する方針は、2017年に改正されました。2017年より農場データの集計はよりタイムリーな報告結果を出せるように、収穫時期とタイミングを合わせています。最新の進捗データは2017年に北半球のグループ、2018年に南半球のグループを対象に調査したものです。設定された基準値に照らし合わせたグループの伸び率と最低1年分の進捗データが報告されます。数値は全世界の平均値です。集約データ、伸び率の算出方法、その他の修正に関する詳細はこちらをご覧ください：www.data.syngenta.com

3 リファレンスファームとベンチマークファームのパフォーマンスを比較する、2018年に新たに導入されたKPI (重要業績評価指標) です。

4 温室効果ガスの排出量は、農場に関する利用可能なデータ、およびデータがない場合はプロキシを使い、Cool Farm Toolの計算手法をもとに算出しています。米国の農場データについては、Field to Market: The Alliance for Sustainable Agricultureの手法をもとに算出を行っています。データ収集、算出方法、前提条件、制約に関する詳細はこちらをご覧ください：www.data.syngenta.com

対象期間：10月1日～9月30日

基準年2014年からの累計

2018年

2017年

2016年

**農業従事者の安全を守る**

安全な使用方法に関するトレーニングの受講者数 (単位：100万) <sup>1</sup>	33.8	8.3	8.2	6.8
シンジェンタ製品トキシコビジランスプログラム実施国		100	100	100
作物保護製品の売上が占める割合		93%	94%	94%

**全ての働き手に配慮する**

Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに参加した供給業者 <sup>2</sup>	99.6%	86%	82%
シンジェンタFair Laborプログラム加入率			
シンジェンタの種子生産国	91%	68%	41%
種子供給農場	99.9%	86%	82%
そのうち、公正労働協会 (FLA) の監査対象となった農場	100%	67%	62%
そのうち、モニタリング対象となった農場 <sup>3</sup>	n/a	20%	18%
Supplier Sustainabilityプログラム加入率			
化学薬品供給業者 <sup>4</sup>	94%	90%	67%
製剤、充填業者 <sup>4,5</sup>	86%	–	–
包装業者 <sup>5,6</sup>	50%	–	–
倉庫および物流業者の健康・安全・環境保護監査の件数	65	117	137
有効なGlobalG.A.P.認証を持つ花農家	96%	90%	73%
有効なG.R.A.S.P.アセスメントを持つ花農家	44%	32%	24%

1 「小規模農家を支援する」目標のもと、トレーニングを通して接触した小規模農家の数を含みます。

2 Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに加入した供給業者の98パーセントが種子サプライチェーンです。

3 新たな報告ツールの導入により、2018年度の数値は算出されていません。

4 持続可能性が高リスクまたは中リスクの製剤、充填業者のみが対象となっています。

5 多彩な供給業者のSupplier Sustainabilityプログラム加入率を測る、2018年に新たに導入されたKPI (重要業績評価指標) です。

6 持続可能性のリスクを独自に査定した包装業者が対象となっています。



データの公開やファイルへのアクセスに対するシンジェンタのアプローチについては、こちらをご覧ください。 [www.data.syngenta.com](http://www.data.syngenta.com)

Syngenta AG  
P.O. Box  
CH-4002 Basel  
Switzerland

持続可能性部門  
E sustainability.syngenta@syngenta.com

[www.syngenta.com](http://www.syngenta.com)

© 2019 Syngenta. All rights reserved. 無断転載を  
禁じます。

編集完了日: 2019年2月

®シンジェンタグループ企業の登録商標

™シンジェンタグループ企業の商標

シンジェンタのワードマーク、シンジェンタのロ  
ゴ、グッドグロースプラン、BRINGING PLANT  
POTENTIAL TO LIFE (植物のちからを暮らしのなか  
に) は、シンジェンタグループ企業の登録商標です。

## グッドグロースプランに関する最新情報

私たちは一年を通じてグッドグロースプランのウェブ  
サイトで最新情報を提供しています。このウェブ  
サイトで、それぞれのコミットメントに関する詳しい  
情報や、フィールドのさまざまな事例をご覧ください。

 詳しくはこちらをご覧ください。  
[www.goodgrowthplan.com](http://www.goodgrowthplan.com)

情報の開示やファイルへのアクセスに対するシンジ  
ェンタのアプローチについて、公式ウェブサイトです  
明しています。

 詳しくはこちらをご覧ください。  
[www.data.syngenta.com](http://www.data.syngenta.com)

シンジェンタは、持続可能性に対して設定したコミッ  
トメントと、人権、公正な労働、環境保護、腐敗防止  
に関するポリシーの実施を通じて、国連グローバル  
コンパクトの10原則を遵守しています。



シンジェンタはグッドグロースプランを通して国連の  
持続可能な発展目標 (SDGs) をサポートし、プラン  
の掲げる6つのコミットメントがSDGsの目標達成に  
貢献しています。目標2 (飢餓の撲滅) と目標17 (持  
続可能な開発に向けた連携) に関しては6つのコミッ  
トメントのすべてが達成に直接貢献しており、その  
他の目標についてもそれぞれに関連するコミットメ  
ントが設定されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

 詳しくはこちらをご覧ください。  
[www.sustainabledevelopment.un.org](http://www.sustainabledevelopment.un.org)

*Bringing plant potential to life*